

下関の港と海の情報誌

2017年  
秋・冬合併号

# しものせき Port News

平成29年12月  
Vol.6

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

## Contents

工事の進捗状況

長州出島の岸壁延伸工事

クルーズ

「コスタ・アトランチカ」が初寄港

イベント

「みなとオアシス下関」登録証交付式

長州出島ガントリークレーン竣工式

下関港紹介⑥

唐戸地区

みなと歴史探訪⑤

太閤石

長州出島に初寄港した「コスタ・アトランチカ」とガントリークレーン（平成29年11月14日）

下関港湾事務所に関する最近の主な出来事や話題をお届けします。

## 工事の進捗状況 長州出島の岸壁延伸工事

「長州出島」の岸壁の長さを現在の300mから410mに延伸するため、平成29年9月6日から11日にかけてケーソン6函を据え付けました。

今回据え付けたケーソンは、岸壁の基礎となる鉄筋コンクリート製のもので、その大きさは幅約17m、奥行き約5m、高さ14mで、重さは約890トンあります。

ケーソン製作場所の下関市彦島の西山地区から、2,200トンまで吊り上げ可能なクレーン（高さ約90m）が付いた起重機船を用いて、ケーソンを1函ずつ吊り上げ、据え付け場所の「長州出島」まで約1時間かけて運搬しました。

ケーソンは箱形で中には空洞があり、これに海水を注水しながら徐々に沈めていき、所定の位置に置きました。

その後、なかの海水を、より重いスラグ（砂状のもの）に置き換え、ケーソン上に係船柱や防舷材※を取り付けて係留施設とします。

平成30年3月までに延伸部110mの岸壁が完成予定で、4月からは、さらに大きなクルーズ船も係留できる岸壁となります。

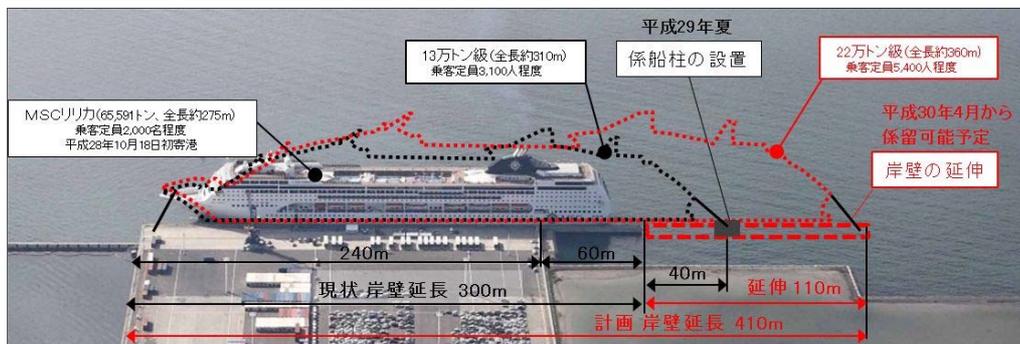
※係船柱：船をロープで繋ぐために取り付ける鉄の柱  
防舷材：船への損傷を防ぐために取り付けるゴム製の緩衝材



西山地区での吊り上げの様子



長州出島での据え付けの様子



岸壁延伸の状況

## クルーズ「コスタ・アトランチカ」が初寄港 ～ 新たに設置した係船柱を利用 ～

平成29年11月14日、長州出島にイタリアのコスタ・クルーズ社が運航するクルーズ船「コスタ・アトランチカ」（総トン数85,619トン）が初寄港しました。

今回寄港したクルーズ船「コスタ・アトランチカ」の全長は約293mあり、これまで長州出島に寄港した中で最も長い船です。

これまで長州出島では、この全長のクルーズ船は係留できませんでしたが、今年の夏に、新たな係船柱を設置したことで寄港が可能となったものです。

船内では初寄港を記念して下関市主催の歓迎式典が行われ、三木副市長から船長へ入港記念の盾などが贈られました。

約2,500人の乗客は下関市内の赤間神宮や唐戸市場などを訪れ、夕方には岸壁で下関の土産品を買って乗船し、一行を乗せた船は出発地の天津へ向けて出港しました。



コスタ・アトランチカ寄港の様子



船内での歓迎式典の様子

# イベント

## 「みなとオアシス下関」登録証交付式

平成29年9月30日、下関市唐戸町の「カモンワーク」ウッドステージにおいて、「みなとオアシス下関」登録証交付式が行われました。

「みなとオアシス」とは地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、国土交通省港湾局長が登録するもので、この記念すべき全国100箇所目として「みなとオアシス下関」が登録されたものです。

登録証交付式では、下関市を代表する伝統芸能「平家踊り」を幕開けに、多くの来賓出席のもと国土交通省九州地方整備局の村岡副局長より、前田下関市長へ登録証が手渡されました。

前田市長からは『登録を契機により多くのお客様で賑わうことを期待するとともに、あるかぼーとを中心としたウォーターフロント計画を、これから最大限にスピード感を持って開発して行きたい。』と挨拶がありました。

当日は晴天に恵まれ、構成施設である「はい！からっと横丁」マスコットキャラクター“からっとくん”の飛び入り参加もあり、多くの市民、観光客が見守る中、盛大に開催することができました。



登録証交付式（平家踊り）の様子



登録証交付式（記念撮影）の様子



登録証交付の様子  
(左：村岡副局長、右：前田市長)



位置図



国土地理院地図（電子国土Web）（<http://maps.gsi.go.jp>）をもとに国土交通省作成  
「みなとオアシス下関」の構成施設

## 長州出島ガントリークレーン竣工式

長州出島では、これまでコンテナの荷役作業をジブクレーンで行っていましたが、このたび、下関市は新たにガントリークレーンを設置しました。

このガントリークレーンは高さが約70mあり、11列5段積コンテナ船に対応しています。これまでのジブクレーンに対して約2倍の荷役効率となります。

平成29年10月16日には、このガントリークレーンの竣工式

が関係者出席のもと行われ、テープカットや万歳三唱を行って竣工を祝いました。



ジブクレーン

ガントリークレーン



長州出島ガントリークレーン竣工式  
平成29年10月16日  
ガントリークレーン竣工式の様子

## 下関港紹介⑥ 唐戸地区

唐戸地区には、唐戸市場・カモンワーク・姉妹都市ひろばの他、門司港・巖流島行きの船乗り場もあり、下関のウォーターフロントエリアとなっています。

古くは市内の商業の中心地として、また海上交通の要衝として栄えたところで、当九州地方整備局港湾空港部の前身で「運輸省第四港湾建設局」の始まりであった「内務省下関土木出張所」があった場所です。

目の前に関門海峡の景色を眺められるため、休日には多くの観光客が訪れる憩いの場所となっています。

近年、長州出島に大型のクルーズ船が寄港した時には、多くの乗客がオプションツアーとして赤間神宮や唐戸市場・カモンワークを訪れ、より一層の賑わいをみせています。

【写真出典：四建九十年のあゆみ（運輸省第四港湾建設局）】



昭和8年頃の唐戸市場（青果・バナナ部）付近



平成8年の唐戸市場付近

## みなと歴史探訪⑤ 太閤石

赤間神宮の水天門の手前に石垣があります。その石が「太閤石」です。

大阪城築城のために、肥前の国から200個余りの石を運んでいましたが、関門海峡はあまりに急な潮のため通過できない状況にありました。

そのうち、大阪城が完成してしまった知らせを聞き、これらの石を海に捨ててしまったとのことでした。

380年後の昭和42年12月、当時の運輸省第四港湾建設局（現在の国土交通省九州地方整備局）が、この石を引き上げて赤間神宮に奉納したとのことでした。



赤間神宮の水天門と太閤石



太閤石の由来説明

## 編集後記

瀬戸内海と日本海の2つの海沿いを走る【下関海峡マラソン2017】が、11月5日に開催されました。

当事務所からは2名がフルマラソンに、3人がボランティアスタッフとして参加しました。

「長州出島」内に、一般の方は普段入ることはできませんが、このマラソンは長州出島内を走るコースとなっているため、参加すると長州出島へ入ることができます。

ぜひ皆様も参加して、長州出島からの景色を楽しんでみてはいかがでしょうか！

(ただし、長州出島は30km付近であるため、景色を楽しむ余裕はないかもしれませんが……)



## 国土交通省 九州地方整備局 下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1  
TEL(083)266-3291 FAX(083)261-1123  
HPアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」  
全国共通フリーダイヤル  
0120-497-370  
受付時間：9:30～12:00と13:00～17:00(土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

